

発災・初動対応

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災津波は、本県全域、とりわけ大津波が襲来した沿岸部に甚大な被害をもたらしました。

滝沢キャンパスが立地する滝沢市（当時の滝沢村）は、県内最大の震度6弱の地震に見舞われ、本学の建物・備品類の被害も5,000万円超に上りました。また、大学の運営においては、後期日程の一般入試、学位記授与式や入学式の中止、新年度の授業開始の延期などを余儀なくされたほか、学生生活では、学生の生家の被災、卒業生の採用内定の取消しなど、その影響は広範に及びました。

県内では、死者・行方不明者6,256人、家屋倒壊26,079棟（令和3年3月31日現在）に上り、加えて、停電、断水、通信途絶など社会基盤も大きく損なわれ、ピーク時には5万人を超える者が避難所に身を寄せるなど、多くの県民の平穏な日々は一瞬にして失われました。

こうした未曾有の災害を受け、「地域社会に貢献する大学」を謳う本学では、発災当日から、帰宅困難な学生や地域住民に大学施設を開放したほか、3月16日には「東北地方太平洋沖地震地震対策本部」を、翌月5日には「岩手県立大学災害復興支援センター」を立ち上げ、自らの復旧や早期の大学運営の正常化に取り組むとともに、全学を挙げて、その持っている技術や人的資源を被災地の支援のために傾注していくこととしました。



震災直後の対応

3月11日 14:46	東日本大震災津波発生 (滝沢村 震度6弱、宮古市 震度5強) [滝沢キャンパス] 帰宅できない学生110人、教員11人が大学に宿泊、自家発電で対応、地域住民にも施設開放(11～13日延べ221人が避難) [宮古キャンパス] 帰宅できない学生1人が寮生14人と学生寮に宿泊、河南地区避難所に男子学生2～3人が避難
3月12日	[滝沢キャンパス] 電力復旧、学生55人、教員13人が大学に宿泊
3月13日	[滝沢キャンパス] 学生19人、教員6人が大学に宿泊
3月14日	学部長等関係者の会議開催
3月16日	「東北地方太平洋沖地震 地震対策本部」設置
3月16日～4月15日	[宮古キャンパス] 体育館を警察の宿泊所に提供
4月5日	「岩手県立大学災害復興支援センター」設置
4月5日、7日、8日	学長が県内被災11市町村と2広域振興局を訪問
4月15日	学長から全教職員に対するメッセージ

中村慶久学長(当時)から全教職員に向けた学長メッセージ(抜粋)

平成23年4月15日(金)

去る3月11日に発生した東日本大震災により、本県沿岸部が壊滅的な大打撃を受けたことに伴い、様々な学事日程を大幅に変更せざるを得なくなりました。

その上で、大災害を受けた本県の復旧・復興に、今後、本学がどう関わっていくべきかについて、私なりの思いと、本学としての方針を説明させて頂き、ご協力をお願いしたいと思っております。

私は、本学の復興支援に対する体制がほぼまとまる目途がついたところで、先日の4月5日と7日、8日の三日間、沿岸部被災地11市町村をお邪魔し、被災のお見舞いを申し上げると同時に、被災市町村の復旧・復興にこれから本学が息長く取り組みたいという思いとその支援体制をご説明申し上げてきました。

久慈から陸前高田まで、全被災地を見てきたところですが、いずれの被災現場も、テレビ映像では表せない、それこそ息をのむ光景ばかりでした。

各被災市町村の市町村長の皆さんは、復旧活動の大変お忙しい中、時間を割いて頂き、被災の状況をお話下さるとともに、私たちのこれからの取組に大変関心を持って聞いて下さいました。

その中でも、「現在は、震災直後ということもあって、日本中、あるいは世界中の支援を受け、マスコミも押し寄せ、いわば、いささか興奮状態にあるが、いずれこの状態が冷めて、本格的な復興期に入った頃に忘れ去られるのではないかと話された、陸前高田市の戸羽市長の言葉が印象的でした。

その時こそ、地元の大学である岩手県立大学に、息の長い支援を期待したいとお話を頂きました。その中で、地域の復興計画やコミュニティの再生、看護や福祉、被災児童の心のケアなどに手を差し伸べて頂きたいとお話も頂きました。

このような本県沿岸部の、しかもどの湾や集落も、悉く想像を絶するような被害を受け、とくに水産業が壊滅的になっている状況を目の当たりにすると、日頃、様々な形でこの地域の皆さんにお世話になっている本学としては、何か手を差し伸べずには居られないという思いに駆られます。もし、皆さんがこの場に立てば、同じ思いになるだろうな、と思いつつ帰ってまいりました。

新学期を迎え、新たな一年が始まるに当たり、地震対策本部も、学内の諸問題に対応するだけではなく、岩手の復旧・復興のために県立大学として何ができるか、何をすべきかを議論し、実践するという段階に入っているのではないかと考えております。

私は、本学の学長に就任して今月で三年目を迎えますが、これまでの二年間、多くの教職員の皆さんや学生に支えられてきました。

そのほとんどは、「本学を愛し、本学を良くしよう」、「岩手を愛し、より良い岩手にしたい」という熱意に引っ張られ、後押しされてきたように感じております。

今年度は、本学にとって、また岩手にとっても、一つの大きな転換期を迎える大事な年になると思います。皆さんには、大変なご無理をおかけすることも多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

一日も早く、被災地域が元の姿以上に復旧・復興し、被災者が元の平和な生活を取り戻すことを心から願うとともに、そのためには、私たちが私たちの出来る範囲で、可能な限り行動し、手を差し伸べる必要があると思っております。教職員の皆さんのご協力を切にお願いする次第であります。

人的・施設等の被害

学生・教職員等の人的被害

宮古短期大学の学生2人が行方不明となり、また、四大学部への入学予定者1人が犠牲となりました。

施設の被災及び復旧費用

[滝沢キャンパス]

地域連携棟を含む大学施設は、柱ひび割れ、壁ひび割れ、硬質床ひび割れなどの被害を受け、復旧には4,011万円の費用を要しました。また、実験機器等の備品等は1,442万円（台帳価格）の被害を受け、被害額は合計で5,453万円となりました。

[宮古キャンパス]

施設、備品ともに大規模な被害はありませんでした。

教学面の対応

●平成22年度学位記授与式の中止

3月18日、22日に予定していた四大学部、大学院研究科、盛岡短期大学部及び宮古短期大学の学位記授与式は中止しました。

●平成23年度一般入試（後期日程）の中止

一般入試後期日程は中止し、大学入試センター試験の得点及び出願書類により可否を判定しました。

●平成23年度入学式の中止

4月4日、5日に予定していた入学式は全て中止し、これに代えて四大学部、盛岡短期大学部は4月18日、大学院研究科は4月20日、宮古短期大学部は5月16日に「新入生を歓迎する会」等を開催しました。

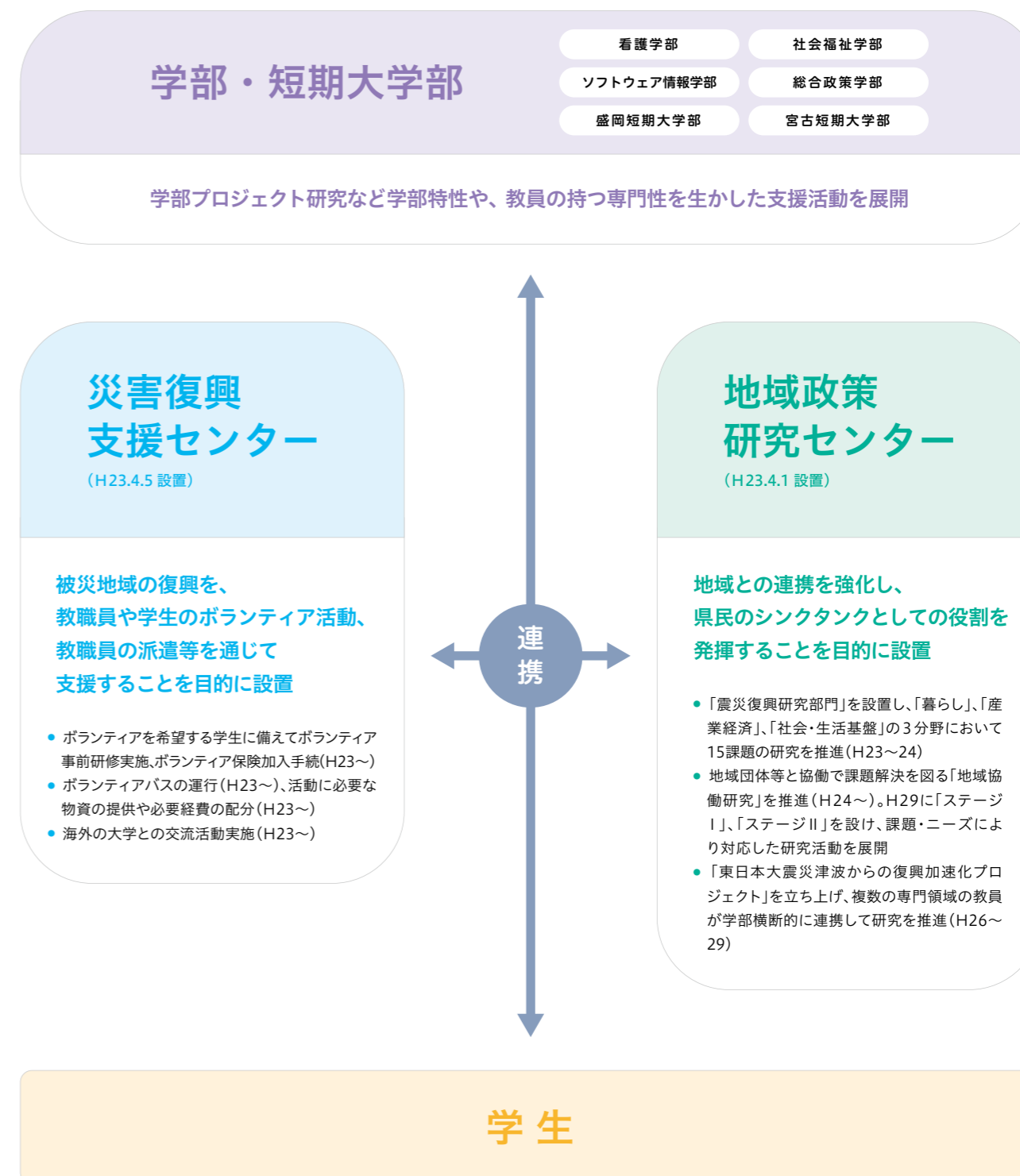
●授業開始時期の変更

滝沢キャンパスでは、当初の計画より10日遅れ、4月22日から新学年の授業を開始しましたが、沿岸部に立地する宮古キャンパスでは、学生の住居の確保が難しいこと等から当初の計画より約1ヶ月遅れ、5月18日に授業を開始しました。



岩手県立大学の復旧・復興支援体制

東北地方太平洋沖地震地震対策本部の下に、全学が連携して、教職員や学生による多様な復興支援活動を一元的に支援する「岩手県立大学災害復興支援センター」を平成23年4月に設置しました。当センターと県民の抱える課題・ニーズに対応した調査研究活動を強化する目的で同月に設置した「岩手県立大学地域政策研究センター」、学部・短期大学部等の教職員、「岩手県立大学学生ボランティアセンター」をはじめとする学生が、連携・協力して中長期的に復興支援に取り組む体制を整えました。



学生・教職員の心のケア体制

被災あるいは復興支援活動により心的ストレスを抱える学生や教職員をメンタル面でサポートするため、健康サポートセンターを中心とした「心のケアチーム」を発足させ、滝沢キャンパス、宮古キャンパスの各種支援窓口との連携を強化し、学生、教職員からの相談への対応や学生ボランティアのケアに関する研修を行いました。

また、学生のストレスや抑うつ状況を把握するため、平成23年度から職業性ストレス簡易調査票のうち18項目を健康調査票に追加し、健康診断時に毎年実施しています。なお、平成29年度にはこれまでの結果をまとめ、全国大学保健管理研究集会で報告しました。

